

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2875201101		
法人名	有限会社パートナー		
事業所名	パートナー伊川谷		
所在地	神戸市西区南別府4丁目368-1 和幸ビル3・4F (電話) 078-977-0311		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2009年1月21日	評価確定日	2009年2月26日

## 【情報提供票より】(20年12月25日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤 8人, 非常勤 15人, 常勤換算 3.5人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	4 階建て	3 ~ 4 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 5,000 / 月 円
	または1日当たり 1,000 円		

## (4) 利用者の概要(12月 25日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	4名	要介護2	2名
要介護3	2名	要介護4	4名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 85.5 歳	最低 75 歳	最高 96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団健裕会 中村医院・川井田泌尿器科・おおた歯科
---------	------------------------------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>・グループホームは川沿いの遊歩道に面しており、近くに公園や商店もあり自然や生活の利便性にめぐまれている。ホームのあるビルは1・2階が医療ゾーン3・4階がホームで利用者、家族にとっても安心できる環境といえる。利用者の心身状況の低下に伴い、地域の行事や活動への参加、日常的な外出についても制約がでてきているが、地域代表的な住民の定期来訪が進んで、情報を得ながら双方向の交流が深まりつつある。今後は家族を通して、地域密着をさらに深めて行かれることを期待したい。</p>
--

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)</p> <p>・地域密着理念の具体化については、地域行事への参加及び地域代表者の定期的来訪など交流の機会を増やしつつあるが、地域に生きる施設としての重要課題としてほしい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)</p> <p>・現場スタッフからの意見を主任が聞き取りまとめた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)</p> <p>・2ヶ月に1回、地域代表者、警察官、地域包括支援センター職員、家族が出席して行われる。でた意見は全職員に報告し共有している。出席家族からの意見、感想も重視している。事業所からの状況報告だけでなく毎回テーマを決めて外部講師を招くことをしている。次回は薬剤師に話をしてもらう予定である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)</p> <p>・年2回の家族会には、多数の家族が参加する。個別面談や家族間の交流の機会ともなっている。日常的に来訪する家族からも、職員に対し何でも話せるよう雰囲気づくりをしている。家族からの意見は、ミーティングで職員に報告、検討し日常サービスに生かすべく努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)</p> <p>・地域代表者から行事案内の情報を得て、可能な限り参加交流している。子供による地域恒例行事は利用者の楽しみでもあり、地域代表の訪問も定期的に行われるなど交流機会は増えてきている。今後、さらに日常的ななじみの関係を深めていく継続した取り組みが望まれる。</p>

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・「人間の尊厳、入居者の個性、日常生活の支援」などを大切にする理念であるが、地域密着型としての具体的明示はない。		・昨年よりは、定期的な行事参加も増え努力が認められるが、より関係性を深めるためにも地域密着の理念の具体化が期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念は掲示され、さらに職員の名札の裏に明記されている。常時携帯され、事あるごとに立ち返る原点となっている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・民生委員から地域行事案内の連絡を受けており、出来る参加はしている。恒例となっている子どもみこしは入居者にとっての楽しみとなっている。買物等散歩時で挨拶する機会も増え、地域代表が定期来訪している。		・双方向の交流を深めるため、今後も地域行事への参加は継続していくことが望まれる。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価は主任が現場スタッフからの意見を取りまとめ作成した。評価結果及び改善点は全職員で検討し成果につなげている。家族会にも報告している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・2ヶ月に1回、地域の民生委員、婦人会、警察官等と家族が出席して行われる。ホームが毎回テーマを決めている。次回は講師に薬剤師を招き話を聞く予定である。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・西区グループホーム連絡会で、区担当職員から行政の制度改正や現況などについて報告を受けている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・ホーム月刊誌に利用者の日常の様子や職員異動の報告等を掲載し全家族に郵送している。日々の健康状態については看護師が随時電話で伝えている。一人ひとりの日常写真はアルバムとしてまとめ、家族に見てもらっている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・春秋の家族会には多数の家族が参加される。個々の家族面談や家族同士の交流の機会ともなっている。日常的に来訪される家族も多い。家族からの意見は朝のミーティングで報告、検討している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・異動を最小限度にするため、職員の食事交流会や、親密な雰囲気作りに配慮している。異動の場合は、全スタッフで影響を少なくするよう努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・経験や従業年数を考慮して、外部研修等に参加を促している。毎月のミーティング内でも随時勉強会を開催している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・年4回開催される西区グループホーム連絡会では意見交換や情報提供、事業所間の交流が行われている。主に管理者の参加に留まっているため、職員同士の交流にも繋げていきたいと考えている。</p>		
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・事前に家族が来訪し納得したうえで、本人が見学する。その時は職員や他の利用者と一緒に過ごし馴染んでもらう。必要に応じ体験入居も行っている。</p>		
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・経験と知識が豊富な利用者から日常的に教えてもらうことが多い、昔の思い出話を聞きながら利用者の気持ちを思いやり、寄り添う配慮に努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p><b>1. 一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・散歩時、お茶を飲んだ時、居室で話を聞く時などに気持ちを聞かせてもらっている。昔の写真を見て、得意なことを思い出し、ふたたび取りかかることも見られる。</p>		
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・毎月の定例カンファレンスで、看護師、ケアマネ、職員が意見を出し合い話し合っている。日常の様子から本人主体の計画を職員間で協力し合い作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・毎月のカンファレンスで定期には3ヶ月ごとに、入退院時もしくは必要に応じて見直している。</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・同一ビル内の医療機関と連携を取り、緊急時に適切な医療を受けられる体制となっている。他科受診等は送迎同行し、利用者と家族の希望に沿う支援を柔軟に行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・適切な医療を受けるため、常勤の看護師が日々の体調管理を行い、家族が了承したホームの主治医が週1回往診を行っている。遠方のかかりつけ医の受診は家族の協力を得ている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・入所時に「重度化や終末期に向けた方針」を利用者と家族に説明し、同意書を交わしている。看取りに関しては、常勤の看護師を中心に利用者と家族の意向を尊重し、安楽な終末期を迎えられるよう支援できている。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・介助の言葉かけは利用者の誇りを損ねないよう配慮している。ホーム便りに載せる写真については、プライバシー尊重のため、利用者や家族に同意を得ている。個人情報鍵のかかる棚に保管している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・本人の思いや意向は声かけをし汲み取るが、表明できない人に対しては日頃の観察から推量し家族に確認している。喫茶店等への散歩のときに希望がふと出てくることあり、その人らしい暮らしの支援へつなげている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立は業者が1ヶ月単位で作成しているが、利用者の好みを献立に反映させている。調理は主にスタッフが行うが利用者に手伝ってもらうこともある。調理中はリビングに座っている利用者と会話し、準備の段階から楽しい雰囲気づくりを心掛けている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・予定時間に入浴しているが、希望があれば夜の入浴など対応可能である。寝たきりの利用者は家族の了解を得て、月2回訪問入浴を利用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・生活歴や日々の会話の中から一人ひとりの得意なことややりたいことを聞き取り、楽しみや役割を見つけられるよう支援している。大正琴の得意な人、小物作りの上手な人、本読みが好きな人など力を発揮できる場面作りを工夫している。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天候や利用者の体調・気分に合わせて、数名ずつのグループで喫茶店に出掛けたり、川沿いを散歩している。ホーム前広場にパン屋が来る日は1階まで下りて各自が好きなものを購入している。1階花壇の花やイチゴの水遣りに下りていくこともある。		・個別の外出支援は、介護対応の体制と利用者のADLを考慮すると現在は難しい状態だが、代表者からは徐々にやりたいとの発言があり、前向きな考えに期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中は鍵を掛けていない。エレベーター出入口にセンサーをつけ、チャイムの音で来訪者や外出者を把握し、安心を共有している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・災害マニュアルは、一連の行動がより理解できるように写真つきで作成している。避難訓練は年2回利用者も一緒に実施し、運営推進会議のメンバーやビルの管理事務所の職員も参加した。日頃から近隣の店にも協力をお願いしている。</p>		
hinan					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・カロリー計算された業者の献立を利用し、食事や水分の摂取量は毎日記録している。医師から指導が出ている利用者には、職員が個別に支援している。</p>		
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・台所・食事場所と一体となったりリビングは広く、大きなソファが置かれレクリエーションも行っている。3階・4階のためガラス戸からの景色は四季を感じることができ、明るくゆったりしたくつろぎの空間となっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・居室にはそれぞれ違った花飾りや表札をつけて、我が家であるという個性が出るよう工夫をしている。また入口に暖簾を掛けプライバシーを守る配慮もなされている。家具などは愛着のある使い慣れたものを使用し、居心地のよい居室作りを目指している。</p>		

 は、重点項目。